



昭和地区 地震・津波避難支援マップ

平成28年10月

昭和地区の特徴と災害

地盤は沖積平野や埋立・干拓地のため、地震が発生すると、各所で地盤沈下や液状化が発生する可能性があります。地盤高は川沿いで2.0～2.5m、地区中央部では0.5m程度であるため、津波で全域が浸水すると想定されています。

津波避難ビル

徳島市指定津波避難ビルは徳島市が施設管理者・所有者と協定を結んだ避難ビルで、24時間いつでも避難可能で十分な耐震性を備えているものです。

津波避難協力ビルは昭和コミュニティ協議会が施設管理者・所有者から徳島市指定津波避難ビルに準じた使用と『地震・津波避難支援マップ』掲載の許可を頂いたものです。ただし徳島市指定津波避難ビルと比べて、構造形式や避難できる日時帯等の条件で不備がありますので、緊急時の補助的な施設としてお考え下さい。

富田中学校、昭和コミュニティセンター、昭和小学校、徳島県立総合福祉センターは津波避難ビルと避難所(安全性が確認された後の救護・救援・情報の拠点となり避難生活が可能な場所)を兼ねています。

避難路

マップ上に示した避難路は、国道や県道等、比較的幅で閉塞が起こりにくいと考えられる道路、そして津波避難ビルまでのアクセス道路等、避難経路の幹線となる道路です。狭い場所や危険物が近くにあつて通行に注意を要する場所等には▲を記してあります。

かぎ保管庫の位置



富田中学校 (東校舎(ピロティ内)南入口)



昭和コミュニティセンター (正面玄関)



昭和小学校 (北校舎南玄関)

南海トラフ巨大地震想定

津波の到達時間は地震発生から41分後。津波の高さが最大となるのは53分後で、約5.0mと想定されています。(沖洲マリニピア東端)



凡例

- 徳島市指定津波避難ビル兼避難所
- 徳島市指定津波避難ビル
- 津波避難協力ビル
- 鍵保管庫
- 敷地入口・建物入口
- 防災倉庫
- 国道・県道等主要避難路
- 地域避難路
- 要注意場所
狭い道路、危険物が傍にある場所、交通量が多い道路など



この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。(承認番号 平28徳島市指令都政第441号)
製作：昭和コミュニティ協議会/昭和地区町内会連合会/昭和地区自主防災会連合会/徳島大学環境防災研究センター/徳島市



製作：昭和コミュニティ協議会/昭和地区町内会連合会/昭和地区自主防災会連合会
徳島大学環境防災研究センター/徳島市

非常時持ち出し品

南海トラフ巨大地震が発生すると、東海地方から九州地方までの広い範囲で被害が発生するため救援が遅くなることが予想されます。また津波浸水が長期化すると、津波避難ビルや緊急避難場所から指定避難所への移動が困難になる可能性もあります。救援活動が始まるまでの数日間、自分や家族の命を守るために各人で必要な非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

■非常用持ち出し品（一例）

- 非常食と飲料水(最低1日分)
- 懐中電灯と予備の電池
- 携帯ラジオ
- ヘルメットや軍手、防塵マスク
- 本人確認書類のコピー(パスポート、免許証、マイナンバーカード等 写真付きのものが望ましい)
- 貴重品(現金など)
- 服用中の薬、お薬手帳のコピー、救急薬品
- 雨具
- 生活必需品・衛生用品
- 保温用アルミシート
- 携帯トイレ(ビニール袋)
- ティッシュペーパー(ウェットタイプも)
- 救助要請用の鏡や笛、赤・黄等の目立つ色のタオル

■上記以外の持ち出し品

-
-
-
-
-

避難情報と連絡手段

■避難先

- 第1避難先：
- 第2避難先：
- 第3避難先：
- 家族が離ればなれになったときの集合場所

■連絡手段

- NTT災害用伝言ダイヤル(171)
- ()
- ()

■その他



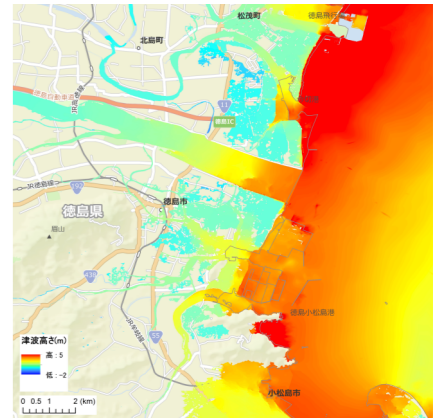
想定浸水域や浸水深、家庭での防災対策、災害情報の入手先、避難時の持ち出し品等は『徳島市地震・津波防災マップ』(平成26年3月)に詳しく掲載されています。この冊子は徳島市役所危機管理課(庁舎7階)で入手できます。

■地震・津波避難支援マップ

このマップは、南海トラフ巨大地震によって発生が想定されている大津波から命を守ることを目的に、住民一人一人が安全で円滑な避難を日常的に考えるための情報(津波避難ビルや避難路等)を昭和コミュニティ協議会、昭和地区町内会連合会、昭和地区自主防災会連合会、徳島大学環境防災研究センター及び徳島市が協力してまとめたものです。

巨大災害に備えるためには災害の規模に関わらず「その時、その場所で、その人にできる最善の行動を考える」ことが大切です。そのため、このマップには先入観を与え、避難の初期行動の妨げになりうる想定浸水域・浸水深を記していません。様々な状況を想像して避難行動を常に考える習慣が、安全で迅速な避難行動に繋がります。想定浸水域・浸水深は『徳島市地震・津波防災マップ』(平成26年3月)をご覧ください。

避難場所や避難路は、地盤沈下、液状化等による破損・倒壊の他、火災等によっても使えなくなる可能性があります。そのために、複数の避難場所と避難経路等を考えておくことが大切です。また実際に歩いて避難場所や避難経路等の状況や避難所要時間等を確認しておくことも重要です。



津波の遡上シミュレーション事例
資料提供：徳島大学大学院 馬場俊孝教授

■避難は徒歩(車による避難は原則禁止)、避難に使える時間は20分程度

南海トラフ巨大地震で発生する大津波が徳島市東沖洲マリニピア東端に到達するのは地震発生から**41分後**、高さ約5mの最大波が到達するのは地震発生から**53分後**と想定されています。津波によって**昭和地区全域が浸水**し、地盤が低い所では浸水深が4m前後(一部では5m以上)に達する可能性があります。地震発生から大きな揺れが長時間(5分程度)続くことや、その後の安全確認と避難の準備、家具やガラス等が散乱した屋内から外に出るために、10分~15分程度かかるとすれば、時間と体力に余裕をもって避難場所まで移動するために使える時間は**20分程度**と考えられます。

家屋・ブロック塀・電柱等の倒壊、屋根瓦や看板等の落下、道路の陥没、埋設物の浮上等が起こるため、**徒歩避難が原則**です。歩行速度は被災状況によって変わりますが、障害物の回避の他、負傷者、高齢者、幼児を介助しながらの避難となるため、普段の半分程度になると考えられています。このマップでは避難歩行速度を35m/分、**避難時間は20分(約700m移動可能)**と仮定しました。津波避難ビル兼避難所となっている富田中学校と昭和小学校には、約20分で到達可能な半径500m円(避難路は折れ曲がっているので移動距離700m相当します)を描いています。参考にしてください。

■緊急的に避難する「津波避難ビル」と救援・救護等の拠点「避難所」

徳島市指定津波避難ビルは、①鉄筋コンクリート造(RC)等の堅牢な建物、②津波の基準水位以上の床高を有する建物、③避難に有効な階へ入口から自由に入ることができる建物、の基準を全て満たす施設で、徳島市と施設管理者の間で協定書が交わされたものです。その建物には図に示すようなプレートが取り付けられています。

マップ上にある津波避難ビル名称のカッコ内の数字は、想定される津波に対して安全な高さにある階の収容可能人数を1人あたり1m²で概算したものです。夜間・休日等に施設される施設には「かぎ保管庫」が備え付けられています。かぎ保管庫は震度5強以上の揺れを感知すると扉が解錠され、入口の鍵を取り出せます。**津波避難ビルは階段・廊下等の共有スペースを緊急的な避難場所として数時間程度使う施設で、食料・毛布等の備蓄は原則ありません。**大津波警報・津波警報が解除されて周囲の安全が確認できたら、速やかに**避難所(救護・救援・情報の拠点で、一定期間、避難生活を送ることが可能な場所)**に避難して下さい。地区内には津波避難ビル兼避難所として、昭和コミュニティセンター、昭和小学校、富田中学校、県立総合福祉センターがあります。(ポリテクセンター徳島も避難所に指定されていますが津波避難ビルではありません)



徳島市指定
津波避難ビル
プレート